

所沢の自然と農業

秋の親睦ハイキング

2019 年 11 月 25 日

稲村洋二 記

11 月 15 日は雲ひとつない快晴の秋空となりました。我々のサークルのメンバー 6 人で飯能駅から歩きはじめ天覧山、多峯主山、高麗峠、巾着田のコースを歩いてきました。

サークルでは会員の懇親と健康維持の為、春と秋の年 2 回のハイキング/ウォーキングを実施しています。今回は新入会員の阿部さん（26 期生）の歓迎の意も含めて一緒に歩き、ハイキングの打ち上げを飯能駅前の居酒屋で盛大に行いました。

久しぶりに飯能の街中をぶらぶら歩きながら天覧山に向かう途中に、潇洒な古い建造物があるのに気がつきました。皆で建物の中に入り老年の説明員に話を聞くと、建物は飯能市の指定有形文化財で「店蔵絹人（みせぐらきぬじん）」と言い、明治 37 年に篠原甚蔵・長三親子により建てられたもので、明治時代には絹織物、生糸、繭、蚕種等の取引をしていたとのことでした。中は店蔵扉、大阪障子、通り土間、揚戸があり、屋根はうだつ作りとなっており飯能の大通りに面していてひときわ目につく建物です。



紅葉にはちょっと早い天覧山を過ぎ夏には蛍が飛び交う湿地帯を抜け、見返り坂の登りにかかるのですが、この見返り坂で常盤御前が振り返るとその景色のあまりの美しさに感嘆したという言い伝えが見返り坂の名の由来であるとの説明文がありましたが、実際には見晴らしは良くなく感嘆するほどのものではないと思いますが、その当時のことはわかりません。

多峯主山頂上直下に黒田直邦の墓があります。黒田直邦は飯能地方を治めていた中山氏より出て初代沼田藩の城主となった人物で、自分の墓は飯能に作るように指示し、菩提寺は能仁寺だそうです。なぜ多峯主山に墓があるのかわかりません。多峯主山山頂は我々と同年代のハイカーで溢れていました。多峯主山からの眺めはすばらしく遠く富士山、丹沢の大山、奥多摩の大岳山、武甲山、筑波山等が一望できます。



山頂で昼食をすませ高麗峠を目指し下山を開始し気持ちのいい樹間を歩くうちに高麗峠に到着。



そのまま巾着田までおり高麗川のドレミ橋を渡りましたが、先日の大雨で流木が橋げたに多く引っかかり、その中には大

木が数本ありました。また、橋は沈下橋で増水したときには水の流れの下になるのでしょう。

帰りは高麗駅の遮断機が下りた踏切をかいぐりホームに入ってきた電車に飛び乗りました。もしミスしてしまえば 20 分の時間ロスとなったでしょう。快晴の秋の 1 日、心地よい汗と共に、ビールの味もまた格別でした。